

県に対する要望書

平成26年11月14日

茨城県市議会議長会

県に対する要望書

件 名	提出市	頁
日立市内及び常陸太田市内における国・県道の整備促進について	日立市 常陸太田市	1
地域医療体制の充実について	日立市	2
筑西幹線道路の整備促進について	古河市 筑西市	3
国道125号整備（下妻・八千代バイパス）の早期実現について	下妻市	4
県立高校の特に人口増加地区である県西の高校の一律統廃合は見直すこと	常総市	5
国道461号及び主要地方道常陸那珂港山方線の整備促進について	常陸太田市	6
茨城県畜産試験場跡地に係る雨水排水施設整備事業の早期完了及び利活用について	笠間市	7
那珂川堤防整備及び河川改修の促進について	ひたちなか市	8
県道水戸那珂湊線の整備促進について	ひたちなか市	9
医師確保対策の推進と医師派遣，診療科偏在の解消について	鹿嶋市	10
筑西・下妻保健医療圏への医療提供体制構築支援について	筑西市	11
主要地方道結城坂東線バイパスの整備促進について	坂東市	12
鹿島港の整備促進について	神栖市	13
医師確保並びに救急医療体制の充実について	神栖市	14

重点要望事項

- 1 日立市内及び常陸太田市内における国・県道の整備促進について (P 1)
- 2 筑西幹線道路の整備促進について (P 3)
- 3 鹿島港の整備促進について (P 1 3)

県への要望書

(件名)

日立市内及び常陸太田市内における国・県道の整備促進について

(内容)

日立市内の国道6号、国道245号を始めとする幹線道路や主要な交差点においては、朝夕の交通渋滞が著しく、市民の日常生活の安全・安心、さらには地域の産業活動にも大きな影響を及ぼしている。

また、東日本大震災発生時には、避難者の移動や支援物資の輸送、応急復旧に支障を来したことから、災害時の避難手段や防災機能強化の視点に立った道路整備の重要性及び復旧・復興推進に資するための幹線道路整備の必要性を改めて認識したところである。

現在、関係各位の御尽力により山側道路が全線開通されたが、その整備効果を十分に発現するには、山側道路と一連の南北軸を形成する国道6号大和田拡幅や日立バイパス（Ⅱ期）、それに接続する国道245号の整備、さらに、日立市と常陸太田市を結ぶ主要地方道日立笠間線の早期事業化など、関連事業における一層の事業進捗が求められている。

よって、茨城県においては、両市における市民生活の利便性向上、産業振興、防災機能の強化及び復興推進のため、下記事項の整備促進について、特段の御配慮をいただくよう要望する。

記

- 1 一般国道245号（茨城港日立港区～大みか町）の平成27年度事業化
- 2 一般国道245号（大みか町～河原子町）の都市計画決定（4車線）及び事業化
- 3 都市計画道路鮎川停車場線（主要地方道日立常陸太田線）の整備促進
- 4 主要地方道日立笠間線（大久保町～常陸太田市亀作町）の早期事業化
- 5 一般国道293号（大和田町～留町区間）の4車線化の検討及び事業化
- 6 一般国道6号大和田拡幅の整備促進
- 7 一般国道6号日立バイパス（Ⅱ期）の整備促進
- 8 一般国道6号日立バイパス（国分町～河原子町）の早期事業化

以上

提出市：日立市、常陸太田市

県への要望書

(件 名)

地域医療体制の充実について

(内 容)

全国的に医師及び看護師の不足・偏在が大きな社会問題となっており、茨城県では人口10万人あたりの医師及び看護師の数は、全国平均を大きく下回っているが、県北地域においては更に低い状況である。

特に、小児科や産婦人科における医師不足は深刻であり、県北地域の中核医療機関である(株)日立製作所日立総合病院においても、平成21年4月から産科診療の休止を余儀なくされる事態となった。

幸いにも茨城県を始めとする関係機関の御支援と御尽力により、平成22年4月から産科診療は再開されたが、県保健医療計画で位置付けられている県北地域の新生児やハイリスク妊産婦に対する専門的な医療を担う地域周産期母子医療センター(中核)の機能は休止状態が続いている。

さらに、日立総合病院においては、医師不足から婦人科診療の休止状態が続いており、水戸地区周辺の周産期母子医療センターや医療機関にしわ寄せが及んでいる。

一方、平成24年10月には県北地区では最初の三次救急医療を担う救命救急センターが日立総合病院に整備され、平成25年9月にはひたち医療センターが県内初の社会医療法人として認定された。両医療機関においては、先の東日本大震災で大きな被害を受けたことから、国、県の支援を受けて病院建物の新築工事を進めており、救急医療を柱とする地域医療体制の整備に向けた取組が進められているところである。

このように県北地域においては医療機関の整備は進みつつあるものの、依然としてマンパワー不足による深刻な状況であり、地域医療体制の確立が図られていないことから、茨城県においては下記事項について、特段の御配慮をいただくよう要望する。

記

- 1 産婦人科や小児科を始めとする医師及び看護師の確保を推進し、地域周産期母子医療センター及び婦人科診療の再開を支援すること。
- 2 二次救急医療体制の充実強化を図るため、施設整備に係る支援を引き続き行うこと。

以 上

提出市： 日立市

県への要望書

(件 名)

筑西幹線道路の整備促進について

(内 容)

この筑西幹線道路は、北関東自動車道桜川筑西 IC から古河地内の 4 号国道までを結ぶ、片側 2 車線の幹線道路であり、「県土 60 分構想」を目標に計画決定されたものです。

この幹線道路は、県西地域と県央地域を結び、人や物の交流を円滑にし、主要都市間の連携や企業立地の促進などを図るうえで、大きな役割を担う広域的な幹線道路として、現在、国県市が連携し整備しているところであります。

しかし、筑西地区においては、未だ路線が決定されていない区間があるなど、早期なルート決定を要望するものです。

また、古河地区においては、名崎工業団地内に日野自動車(株)の工場が移転稼働しており、これに併せた早期な幹線整備も欠かせません。

さらには、古河市をはじめ県西地域にとって、関連企業の進出や定住人口の増加が見込めるなど、道路網の早期整備は一層重要なものとなってまいります。

茨城県におかれましては、圏域住民の生活向上と圏域経済のさらなる発展に大きく寄与するであろう筑西幹線道路の予算確保と早期整備を要望するものであります。

提出市 古河市、筑西市

県への要望書

(件 名)

国道 125 号整備（下妻・八千代バイパス）の早期実現に
ついて

(内 容)

国道 125 号は、筑波研究学園都市と県西地域を結ぶ広域幹線道路として、地域の交流や連携を図るうえで重要な役割を担っておりますが、その一方で、交通量が多く、未整備の箇所も多くみられることから、交通渋滞等の課題を抱えております。

中でも、下妻市内の長塚三差路交差点以西においては、交通量の増加や幅員狭隘が原因となって交通渋滞が慢性化しており、バイパスによる早急な解消が地域経済の振興や活性化を図るうえでも喫緊の課題となっております。

このようなことから、国道 125 号整備（下妻・八千代バイパス）の早期実現を要望いたします。

提出市： 下妻市

県への要望書

(件 名)

県立高校の特に人口増加地区である県西の高校の一律統廃合
は見直すこと

(内 容)

県教育委員会は「県内の高校進学者が平成21年から平成32年の10年間で4,500人減少するので、高校の統廃合が必要」という立場をとっておりますが、生徒減少には地域間格差があります。常総市は人口増加が見込まれるつくば市や守谷市、つくばみらい市に隣接するため、常総市内の高校への入学希望者は増加することが考えられます。

それ故、県立高校の一律統廃合ではなくて、地域や学校、生徒の実態にあった教育的支援を行っていくことを県教育委員会に求めます。

提出市：常 総 市

県への要望書

(件 名)

国道461号及び主要地方道常陸那珂港山方線の整備促進について

(内 容)

国道461号は、栃木県日光市と茨城県高萩市を結ぶ広域幹線道路であり、竜神大吊橋や西山荘など常陸太田市の主要な観光施設へのアクセス道路としても重要な路線です。

しかし、本路線の常陸太田市上高倉町から折橋町までの区間は、乗用車がすれ違いきないほど幅員が狭く、しかも屈曲しているために交通の障害となっています。また、春・秋の観光シーズンは多くの観光客でにぎわい、随所で交通渋滞が発生しており、早急な整備が求められております。

これまで、関係機関のご配慮により、平成13年度から国道改築事業として事業を実施されており、既に一部が開通するなど事業が進んでおりますが、今後もより一層の整備促進を強く要望いたします。

また、県道常陸那珂港山方線は、常陸那珂港から県北内部を縦断する広域幹線道路であり、常陸太田市の地域振興を支える大変重要な路線です。

しかし、本路線の宮の郷工業団地から中利員町間については、改良工事の予定も定まらない状況にあり、宮の郷工業団地へのアクセス道路として、また、金砂郷地区の重要な縦貫道路として、安全安心な生活道路の整備の面からも、早急な整備が求められております。

これまで、関係機関のご配慮により、平成21年3月に木島大橋が完成し、現在小島町のミニバイパス、下宮河内町地内のバイパス工事が進められておりますが、今後もより一層の整備促進を強く要望いたします。

提出市：常陸太田市

県への要望書

(件 名)

茨城県畜産試験場跡地に係る雨水排水施設整備事業の早期完了
及び利活用について

(内 容)

茨城県畜産試験場跡地については、友部地区市街地に近接し、常磐自動車道友部スマート I C や北関東自動車道友部 I C とアクセスしやすく、利便性の高い大規模公有地であり、笠間市総合計画をはじめ各種計画において、笠間市の今後のまちづくりの重要な用地として位置づけられ、県と笠間市において、その利活用について様々な検討がなされてきたところであります。また、当該土地の早期の利活用は、笠間市をはじめ県央地域の活性化を図る上でも重要なものであります。

このたび、県の新市町村づくり支援事業により、雨水排水施設の実施設計業務が着手され、本格的な利活用の実現に向けて大きく前進をしたところであります。今後も、地域住民の要望を踏まえるとともに、県と市が情報を共有し、協議を積極的に行うなど、事業を推進していただきますよう下記について要望いたします。

- 1 雨水排水施設整備事業の早期完成をはかること。
- 2 早期利活用に向け、積極的な企業誘致等の活動を推進すること。

提出市： 笠間市

県への要望書

(件 名)

那珂川堤防整備及び河川改修の促進について

(内 容)

那珂川堤防整備及び河川改修については、本市三反田地区において堤防が完成し、対岸の水戸市大野地区では事業に着手するなど着実に治水安全度の向上がされているところです。

しかしながら、那珂川下流河口区間については堤防が未整備であり、近年の度重なる集中豪雨や高潮による河川の氾濫、河口地域の浸水等の被害が強く懸念され、地域住民は東日本大震災の津波被害の記憶も重なり不安な生活を余儀なくされているところであります。

つきましては、堤防の未整備区間の早急な対策が必要であることから、特に、三反田地区から下流河口区間の早期の築堤および河川改修の推進を要望いたします。

提出市：ひたちなか市

県への要望書

(件 名)

県道水戸那珂湊線の整備促進について

(内 容)

県道水戸那珂湊線は、本市の那珂湊市街地「おさかな市場」とひたちなか地区の国営常陸海浜公園を沿岸部で結び、経由して大洗町・鹿嶋市方面や日立市方面に至る生活、物流、観光に有要な海岸ルートであり、風光明媚な海岸線を走る県内でも数少ない道路であります。

しかしながら、水戸那珂湊線の平磯地区から阿字ヶ浦地区までの約 2900m間は、歩道もなく狭隘で、観光バス等大型車両の対面通行が困難な状態であり一般車両の通行にも支障をきたし、歩行者を含めた交通の安全性を確保できない状況にもあります。

つきましては、観光の振興や地域の活性化、さらに円滑かつ安全な交通を図ることからも、県道水戸那珂湊線の拡幅を含めた整備促進を要望します。

提出市：ひたちなか市

県への要望書

(件 名)

医師確保対策の推進と医師派遣，診療科偏在の解消について

(内 容)

潮来保健所管内における平成24年12月末の人口10万人に当たりの医師数は99.5人であり，全国46位と低位にある本県の中でも県平均（175.7人）を大きく下回り，全国平均（237.8人）の半分にも満たない状況にあります。医師不足による脆弱な救急医療体制は，地域医療の崩壊の危機に直面しているといっても過言でないほど深刻な状況にあり，本医療圏のような医師不足地域に対しては，従来の医師確保策のほかにも，医師の地域偏在を是正するため，地域枠や医師就学資金貸付制度等により養成・確保した医師について一定期間の特定地域への赴任義務付け等の制度的な方策等を講じられるよう要望いたします。

また，産科，精神科，整形外科等の特定診療科での医師不足も顕著であり，診療科偏在の解消についても要望いたします。

提出市： 鹿嶋市

県への要望書

(件 名)

筑西・下妻保健医療圏への医療提供体制構築支援について

(内 容)

筑西・下妻保健医療圏は、心疾患及び脳血管疾患の死亡率が全国を大きく上回っており、県内9保健医療圏でもワースト上位となっています。

この地域の安全と安心が享受できる医療環境の整備が望まれる一方、他の医療機関への患者流出により圏外の医療機関の疲弊が心配されているところ
です。

よって、筑西・下妻保健医療圏の健全な医療提供体制構築のための総合的
支援について強く要望いたします。

提出市： 筑西市

県への要望

(件名)

主要地方道結城坂東線バイパスの整備促進について

(内容)

首都圏中央連絡自動車道のアクセス道路となる都市計画道路沓掛橋岩井線（バイパス区間 $L=4.3\text{ km}$ 、 $W=16\text{ m}$ ）は、平成 7 年 3 月 23 日に都市計画決定されておりますが、合併に伴う新市建設計画においても、地域の活性化及び、豊かさゆとりの実感できる生活を実現するための都市連絡軸として重要な路線に位置付けられております。

また、半谷・富田地区工業団地の整備を進めている状況で、インターチェンジからのアクセス道路となることや、半谷・富田地区からのインターチェンジへのアクセス道路と直結することなど、本市にとって重要な路線となるため早期整備を要望いたします。

提出市：坂東市

県への要望書

(件 名)

鹿島港の整備促進について

(内 容)

鹿島港は石油化学，鉄鋼，飼料，木材等約160社が立地し，原材料の輸入や製品の輸出基地として，鹿島臨海工業地帯を支える重要な役割を担っています。平成23年5月には，我が国を代表する穀物の一大拠点港として「国際バルク戦略港湾（穀物）」に選定され，今後大型船の増加が見込まれており，公共埠頭においても物流の活性化を図るべく，大型船を見据えた港湾機能の更なる強化が求められています。

現在，既設の南・北公共埠頭岸壁は水深－10mが最大であるため，大型船は喫水制限をして利用するか，水深のある企業専用岸壁を借用している状況です。また，南公共埠頭では既に計画数量を上回る貨物を取り扱っており，120%超の稼働率が続いております。

このような状況から，未整備である北公共埠頭の完成が待ち望まれており，については，更なる鹿島港の振興と鹿島地域経済の発展のため，北公共埠頭 水深－13m岸壁の早期事業化を要望いたします。

提出市： 神栖市

県への要望書

(件 名)

医師確保並びに救急医療体制の充実について

(内 容)

鹿行南部地域の二次救急医療体制は、4病院（神栖市3・鹿嶋市1）の中核病院が対応していますが、各病院とも医師不足が深刻で、診療科目の縮小や休止を行わざるを得ない状況にあり、さらに救急搬送先の確保に時間を要するなど、救急医療に支障をきたしています。

医療問題は広域的な見地で捉える必要があることから、県が主体となって、地域医療を担う二次救急医療機関の機能強化を図っていただきたく要望いたします。

また、医師不足については、全国的な問題であり、特に県東地区は、全国平均の医師数を大きく下回っております。そのため、医学部定員の更なる増員、地域偏在を是正するため医学部の地域枠拡大、都道府県域を超えた医師派遣制度の確立等、国に働きかけるよう要望いたします。

提出市： 神栖市